

山田校区まちづくりプラン

【山田校区振興計画】



【国登録文化財 山田の凱旋門】

始良市

山田校区コミュニティ協議会

目 次

はじめに	1
I 山田校区の概要	
1 山田校区の範囲	2
2 山田地域の歴史的な変遷・年表	3～5
3 山田校区内の指定文化財・寺院跡	6
II 山田校区コミュニティ協議会の設立と組織体制	
1 校区コミュニティ協議会設立の経緯	7
2 組織体制	8
III 山田校区の現状	
1 始良市の人口の動向	9
2 山田校区の人口構成	9
3 山田校区内の活動組織・主な施設	10
IV 山田校区の課題	
1 地域の課題	
(1) 解決しなければならないと思う地域課題	11
(2) これから取り組むべき地域課題	12
(3) 地域からの土木部への要望一覧	13～14
2 地域の課題のまとめ	15
3 専門部の課題と今後の方針	
青少年育成部	16
健康福祉部	17
スポーツ安全部	18
地域づくり部	19
V 山田校区の目指す方向	
1 校区振興計画を始良市実施計画へ反映	20～21
2 山田校区振興計画の推進	22
VI 資料	
1 山田校区内の史跡	23～27
2 山田校区まちづくりプラン策定の経過・現地調査活動写真	28
3 山田校区まちづくりプラン策定委員	29
4 山田校区の観光資源活用への提言（第一工業大学）	30～33

はじめに

山田校区コミュニティ協議会長
下村 愿

私達が暮らしている山田校区は、自然環境や地の利に恵まれた静かな農村地域です。平成8年には、農村集落排水事業が導入され、トイレの水洗化や生活排水等処理することができ、清流山田川には汚水が流入することもなくなりました。



交通網も山田橋の掛け替えや県道40号線が整備され、山田地区公民館から空港まで20分で結ばれるなど県央の利点を生かせる地域となっています。また、良き伝統と共に永年の間培ってきた地域の絆は受け継がれており、協働作業活動や近隣の相互扶助の活動に生かされています。

しかしながら、全国的な少子高齢社会の到来の中で、山田校区においても、人口減少に歯止めがかからず、いわゆる限界集落の出現や様々な分野において地域活力の減退が問題となっています。皆さんからのアンケートからも、人口減のために商店がなくなった、バスの運行回数が減った、学校の児童・生徒数が減った、自治会の活動も十分に出来なくなった、水田の耕作が出来なくなった、猿やいのししの被害が大きいなどの回答が寄せられています。

地域としては、その対策に、かかし館や山田川など農産物の販売所を開き、地域の行事として「かかし祭り」などを定着させています。また、公助による山田団地の建設は児童・生徒数の増加に繋がり、校庭での賑やかな声は地域の活力となっています。

これからの「山田校区コミュニティ」の、安全・安心な生活を確保し、維持していくために大切なことは、地域住民と行政がともに知恵を出し合い地道に実践を重ねる事でありましょう。

今回、「山田校区まちづくりプラン」を地域の多くの皆さんのご協力を頂きながら作成いたしました。各専門部においては、これまでの実践の積み上げに基づいたプランとし、山田校区の共通の課題を「山田校区の目指すべき方向」として「人口の維持」「産業・経済」「生活」「環境」「地域」「教育・文化」の6項に分けて「地域でまとめられた考え」といたしました。

始良市に於いて策定される総合計画、それに伴う実施計画策定につながることを願っております。これまでに、貴重なご意見を頂きました校区の皆様、現地調査やプランのとりまとめにご尽力くださいました委員の皆様、心から感謝申し上げます。

2 山田地域の歴史的な変遷・年表

- 和銅 6年（713年） 大隅国の創設 豊前の民200戸を移した
和銅年間 福岡志賀島の住人鈴木三郎政氏が下向して山田地方に一族が割拠
- 弘安 5年（1282年） 京都石清水から平山了清が下向した。その後一族が栄えて帖佐郷の大半を領有し、それぞれが持城を与えられ拠り、分担領知した。
- 天文 24年（1555年） 戦国時代から山田の地名がみえる。蒲生方の松阪城を攻めた際の「帖佐之内山田地頭梅北宮内左衛門尉」の奮戦ぶりが書いてある。この頃は帖佐郷に含まれていた。
- 慶長 5年（1600年） 島津維新書状に「吉田・蒲生・帖佐・山田・加治木此五ヶ所に外城二構」とありこの頃の成立とも考えられている。寛文4年（1664年）の郡村高辻帳にみえる帖佐郷の山田・甑・寺師・大山・辺川村がこれにあたる。その後、甑村は、北山村、山田村は、上名村と下名村になるがその時期は不詳である。
- 天文 2年（1737年） 重富郷成立、帖佐郷から脇元・平松・春花・船津、吉田郷から、触田郷を合わせて一郷とした。この時帖佐から多くの村を削ったので、山田から寺師・山元を帖佐に繰り入れ、山田に蒲生から木津志を繰り入れた。

明治以降の行政組織の変遷

明治4年7月14日の廃藩置県により、始良市域は鹿児島県始羅郡の所属となるが政府は、同年10月から11月にかけて県の整理を行い、この改置府県により都城県が誕生した際に山田は、都城県に属することになった。しかし、交通の便等も考慮して明治5年5月に再び鹿児島県の所管となった。明治6年1月31日には都城県は廃止されている。

- 明治 22年（1889年） 町村制により、山田郷は山田村となり、郷内にあった村は大字となる
- 昭和 27年（1952年） 大字辺川を加治木町に編入
- 昭和 30年（1955年） 1月1日 帖佐町、重富村、山田村が合併して始良町となる
- | | |
|---------------|---------|
| 昭和 25年の 山田村人口 | 8,122人 |
| 帖佐町人口 | 12,980人 |
| 重富村人口 | 7,986人 |
| 昭和 30年の 合併時人口 | 28,200人 |
- 平成 22年（2010年） 3月23日 加治木町、始良町、蒲生町が合併して始良市が誕生
- | | |
|-------|---------|
| 合併時人口 | 74,809人 |
|-------|---------|

山田の歴史年表 (山田小 山田研究・始良町郷土誌から引用)

時代	年号	出来事
縄文時代 弥生時代		○黒瀬、城、奈良袂のあたりに人が住みついた ○米作りが始まり、村ができた
奈良時代	708 713 714 720	○鈴木三郎政氏が黒島神社を建て山田一帯を拓いた ○大隅国がつくられ、大和朝廷の支配が強まった ○大分から豊留、山田、蒲生あたりに200人の人を移した ○隼人が大きな反乱を起こし、1年半後に鎮圧された
平安時代	1123 1179 1185	○蒲生八幡が創建された ○源氏と平氏が争った ○平清盛が政権を握り、平氏が九州を支配した ○壇ノ浦で平氏滅亡
鎌倉時代	1187 1274 1276 1282 1328	○島津忠久薩摩・大隅両国の守護職になった ○元の軍勢が博多を攻めた ○山田は帖佐郡に含まれ国分正八幡宮の領地であった 元軍を防ぐため博多に石の防塁を造るよう命じられた ○京都石清水八幡宮から平山了清一族・家来870人余りを 連れて帖佐に移り住み、平山城を築いて山田を含む帖佐地 方の領主となった ○上名諏訪山に諏訪山板碑が建てられた
南北朝時代 室町時代	1342 1436 1458 1529 1543 1555 1557	○平山氏と国分正八幡宮との間に争いがあった ○山田麓に来福寺が建てられた この頃に上名に陽春院が出来た ○島津季久が平山氏にかわって帖佐、山田の領主になった 島津氏が一族同士や他の領主と激しく戦った ○祁答院重武が平山城、山田城を攻め落とした ○この頃、正田院ができた ○種子島に鉄砲が伝わる ○島津貴久が渋谷氏の拠る平山城、山田城を奪還した ○梅北国兼山田地頭に任じられた
安土・桃山 時代	1578 1592 1600	○島津氏が薩摩、大隅、日向の三州を統一した ○梅北国兼が佐敷城で豊臣秀吉に反乱を起こし、殺害された ○関ヶ原の戦い
江戸時代	1603 1610 1709 1732 1752 1784	○江戸幕府が成立した ○山田正田院に義弘が白山権現を建てた ○黒島神社が大水で流され宝物。記録を失う ○上名黒島神社前に田の神祠建立 ○水口ゆきえ中津野用水路を開く ○黒島神社に石橋が架かる(始良市文化財)

時 代	年 号	出 来 事
江戸時代	1797	○羽田坂に秋葉神社が建てられた
	1780	○この頃上名の新開や開、中川原に串木野から人を（土木技術者）を雇って開田が盛んに行われた
		○この頃西田に米屋、こうじ屋、油屋など6軒ほどの店ができた
	1815	○西田の田の神が建てられた
	1863	○イギリスの軍艦が錦江湾に来て、薩英戦争がおきた
明治時代	1868	○明治天皇即位 9. 8日改元
	1869	○寺や仏像が壊された（廃仏毀釈）
	1876	○山田小学校が発足、分校に日枝小学（大山） 稲荷小学（上名）
	1877	○西南戦争がおき、山田からも多くの人に従軍した。 鹿児島に帰る途中の西郷隆盛が山田に立ち寄った （腰かけ石）
	1888	○竹下六郎氏が山田村の初代村長となった
	1892	○光楽寺ができた
	1894	○日清戦争がおきた
		○この頃から新町に商店ができはじめた
	1904	○日露戦争がおきた
	1906	○山田に凱旋門ができた（国指定文化財）
	1907	○水明旅館の吉水市蔵氏が駅馬車を始めた
1908	○山田郵便局ができた	
大正時代	1914	○桜島が大爆発して大隅半島と陸続きになった
	1915	○青年学舎、弘道舎、興文館ができた
	1916	○新馬場、古馬場、星が山、新町に電灯がついた
	1919	○中川原、鶴田に電灯がついた
	1924	○大山に 電灯がついた
	1926	○帖佐駅が落成した
昭和時代	1926	○12月25日昭和と改元
	1928	○久永医院が新馬場に開院した
	1929	○山田橋が架かった
	1930	○山田小が現在の場所に移転した
	1941	○太平洋戦争が始まった。小学校が国民学校と変わった
	1945	○7月27日に山田橋付近に空襲を受けた
		○8月15日に太平洋戦争が終わった
	1947	○学制改革により新制山田中学校が5月1日に創立
	1955	○山田村、帖佐町、重富村が合併して始良町となった
	1963	○始良町三代町長に池田盛孝氏当選
	1982	○山田地区公民館新築
1955	○特別養護老人ホーム「やすらぎの里」開園	
平成時代	2010	○始良町、加治木町、蒲生町が合併し始良市となった

3 山田校区内の指定文化財・寺院跡

山田校区内には、数多くの文化財や遺跡が残されています。まちづくりプランを策定するこの機会に、改めて、山田の素晴らしい文化財を確認し、次代に引き継いでいくことが大切です。ここには、始良市指定の文化財と、廃仏毀釈などの影響で消滅した寺院の跡などを紹介しておきます。

国登録文化財

「山田の凱旋門」 所在地 下名 1,178 高さ 4.71 ㍍ アーチ式石造り
日露戦争に従軍した人達の無事な帰国を記念して、明治39年3月に山田村兵事会が建設したもので、石造りの凱旋門は全国で1基とされています。

有形文化財

「黒島神社石橋」 所在地 上名621 神社境内 高さ 4.36 ㍍ 全長 6.1 ㍍
この石橋は、天明4年(1784)6月24日に架けられた。当時はまだ円周率が普及していないためアーチ式ではなく、逆V字状に切石を積み上げてあり、石橋技術の系譜上、貴重な意味を持つとされている。橋の手前に記念碑が残されています。

史跡

「諏訪山板碑」 所在地 上名1105番地 高さ1 ㍍ 幅 0.25 ㍍ 厚さ 0.15 ㍍
この板碑は上名の諏訪神社跡にあり、この地は為朝城と呼ばれる源為朝の築城伝説地であり、この山は地域でもお諏訪様として親しまれています。

有形民俗文化財

「西田の田の神」 所在地 下名 2733 番地 西田自治公民館前 高さ 0.71 ㍍
石碑頂部から右側縁にかけて刻銘がある。文化二年乙丑四月吉祥日

無形民俗文化財

お田植え祭り(上名)
疱瘡踊り (下名)
下名棒踊り (下名)
上名棒踊り (上名)

山田校区内の寺院跡

正田院 (下名・鶴田 小字 鐘突)
陽春院 (上名・城 小字 陽春院跡)
来福寺 (下名・新馬場 小字 平瀬)
大山大寺 (大山・小字 大寺)
阿弥陀寺 (上名・奈良袂 小字 淵上)
城光寺 (下名・中川原 小字 城光寺)
新光寺 (大山・小字 堂園)
釈迦堂 (上名・内山田 小字 上の段)

II 山田校区コミュニティ協議会の設立と組織体制

1 山田校区コミュニティ協議会の設立の経緯

平成22年に始良町、加治木町、蒲生町が合併し始良市が設置されました。合併協議会に於いて、「コミュニティ施策の取り扱い」が協議されましたが各町の組織に違いがあり早急に方向性を見いだすことは困難であることから次のようにまとめられています。

1. これまでの歴史的経過、地域特性を踏まえつつ、関係団体等とともに協議する場を設けその方向性について調整する。
2. 新市における地域コミュニティ活動に対する支援のあり方については、これまでの地域づくり活動の経緯、地域特性を踏まえ、引き続き特色ある地域づくり活動を促進出来るよう、関係団体等とともに協議する場を設け、その方向性について調整する。

合併後、「始良市総合計画」の中に、コミュニティ活動、市民活動の推進の基本施策の方向性が示され、始良市としての地域コミュニティ組織の構築を検討することになりました。

平成25年 7月12日 第1回 始良市地域コミュニティ組織検討委員会(始良市)
平成26年 1月16日 第2回 始良市地域コミュニティ組織検討委員会(始良市)

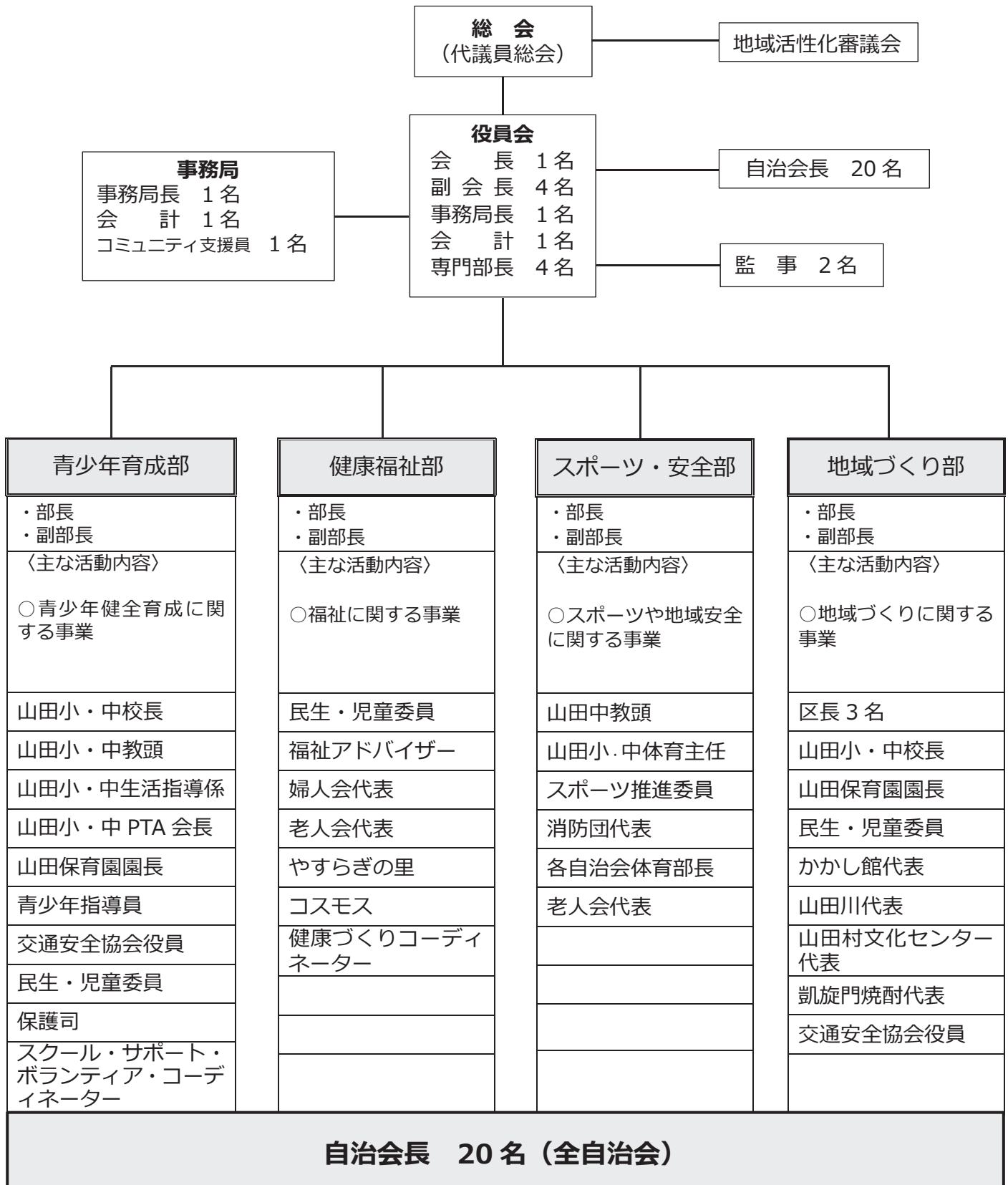
平成25年 9月14日 地域コミュニティ組織説明会 (山田校区)
平成26年 3月15日 山田地域活性化審議会及び山田自治会長会の合同検討会

平成26年 7月19日 第1回 山田校区コミュニティ協議会設立準備委員会
平成26年 8月30日 第2回 山田校区コミュニティ協議会設立準備委員会
平成26年 10月26日 第3回 山田校区コミュニティ協議会設立準備委員会
平成26年 12月13日 第4回 山田校区コミュニティ協議会設立準備委員会
平成27年 2月15日 第5回 山田校区コミュニティ協議会設立準備委員会

平成27年 3月 2日 校区コミュニティ協議会設立準備委員会代表者会(始良市)

平成27年 4月19日 山田校区コミュニティ協議会設立総会
協議会規約決定
協議会組織決定
協議会役員 会長 下村 愿 氏就任
山田校区コミュニティ協議会発足

2 山田校区コミュニティ協議会 組織体制



Ⅲ 山田校区の現状

始良市の人口は、平成17年の国勢調査では74,840人、平成22年国勢調査では74,809人、平成27年国勢調査は75,173人と増加の傾向を示しています。

人口減少の進む県下市町村において希有の事例でありましょう。しかし「限界集落」という言葉が生み出されたように、山田校区もまさに人口減・高齢社会となっており集落としての維持が困難な集落が出現しています。

1 始良市の人口の動向

項目	人 口			所 帯 数	1所帯あたり 平均人口
	総数	男子	女子		
平成17年	74,840	34,850	39,990	29,496	2.54
平成22年	74,809	34,763	40,046	30,478	2.45
平成27年	75,173	35,004	40,169	31,435	2.40
平成30年	77,033	36,069	40,964	36,047	2.14

2 山田校区の人口構成

自治会	山田校区自治会別総人口			平成30年1月1日調査			
	20年	27年	30年	所帯数	年少	老年	高齢化率
新馬場	58	59	57	36	4	30	52.6
古馬場	67	57	46	26	0	29	63
星が山	54	45	39	23	1	24	61.5
鶴 田	106	114	111	43	12	38	34.2
中川原	55	68	64	33	12	27	42.2
西 田	42	41	38	25	1	25	65.8
新 町	163	172	155	64	37	28	18.1
寺 脇	61	54	49	21	4	19	38.8
城	13	10	9	7	0	6	66.7
奈良袂	78	79	82	39	10	31	37.8
池 平	10	5	5	3	0	2	40
内山田	68	62	61	31	6	37	60.7
黒瀬南	67	60	54	34	3	31	57.4
黒瀬北	25	19	18	13	0	15	83.3
板ノ口	92	80	65	38	4	37	56.9
目木金	22	17	14	11	0	11	78.6
飛 野	17	14	10	8	0	9	90
大山団地	82	71	46	22	13	9	19.6
大 山	144	126	138	79	16	75	54.3
山田団地	-	-	112	29	56	1	0.9
合計	1,224	1,153	1,173	585	179	484	41.3

3 山田校区内の活動組織・主な施設

活動組織

活動組織	主な活動
山田校区コミュニティ協議会	福祉・青少年・スポーツ安全・地域活動の推進
山田地域活性化審議会	自治会を跨がる課題の検討、陳情活動・コミ協との連携
大山区	大山地区の自治組織であり地区の課題に取り組む
下名区	下名地区の自治組織であり地区の課題に取り組む
上名区	上名地区の自治組織であり地区の課題に取り組む
地域消防団	山田地区の防災活動、大山・下名・上名の3方面隊構成
民生・児童委員	地域の福祉活動
山田校区自治会長連絡協議会	山田校区20自治会の連絡員が連携し地域の活動を進める
山下土地改良区	山下用水に係る水田についての用水、土地改良を進める
上名土地改良区	上名地域の水田についての用水、土地改良を進める
山田小PTA	小学校職員と児童保護者の連携を図る
山田中PTA	中学校職員と生徒保護者の連携を図る
上名村作り委員会	地域活性化のために全ての面で活動 運動会・親睦会等
上名「ヤッミソ」会	耕地の荒廃防止、農業生産向上への寄与
上名集落営農協定	耕地の荒廃防止 共同作業の推進
下名環境保全会	耕地の荒廃防止 共同作業の推進
大山活動組織	耕地の荒廃防止 共同作業の推進
かかし館	下名地域農産物を中心とした販売所を兼ねたコミュニケーションの場
里の駅（山田川）	上名地域農産物を中心とした販売所を兼ねたコミュニケーションの場
目木金環境保全対策委員会	目木金廃棄物処分場の管理についての監視
凱旋門友の会	下名北部地域高齢者の健康と親睦を図る

主な施設

施設名	備考
始良市山田出張所	始良市行政事務の取扱い
山田郵便局	ゆうちょ銀行の取り扱い
山田地区公民館	社会教育の一環として生涯学習の場を提供
久永医院	地域医療の拠点としての役割を提供
やすらぎの里	特別養護老人ホーム等地域の福祉の拠点としての役割を提供
コスモス	グループホーム等地域の福祉の拠点としての役割を提供
農村振興センター	上名地域をはじめ全市の農村振興施設としての役割を提供
山田小学校	児童の教育
山田中学校	生徒の教育
山田保育園	乳幼児の保育
山田水源地	始良市の水源を供給
目木金廃棄物処分場	不燃物処理施設整理後の管理
始良リサイクルセンター	有価物資源の処理施設として機能
集落排水処理施設	農村集落排水事業に係る集落排水処理を行う

IV 山田校区の課題

1 地域の課題

(1) 解決しなければならないと思う地域課題

課 題	
人・地域	<p>人口の減少と過疎化が激しい 超高齢社会となりつつある 少子化となり子供のいない自治会もある 過疎地が発生し孤立化、孤独化が強まっている 高齢者が多くなり自治活動が困難となりつつある 昔とすると自治会の絆が希薄となりつつある 児童・生徒数減少により学校存続が課題となる 自治会活動への参加が減少している 若者が帰ってこない 働く企業が少ない</p>
産業・経済	<p>猿、イノシシ等の害獣被害が増加した 耕作放棄地の発生、竹林の荒廃が目立ってきた 高齢化による耕作者の減少が顕著になってきた 耕作する水田が交錯し能率が悪い 農道・用水路の維持管理が難しくなってきた</p>
生活・環境	<p>医療機関が少ない 商店がなく買い物難民が発生している 空き家が増加し、管理がなされていない家屋があり火災発生・不審者侵入の危険がある 校区の範囲が広く市道の雑草繁茂対策・管理が十分に出来ない 道路改良により車のスピードが早く危険となったが安全対策が遅れている 交通弱者にとっては、公共交通体系が不十分である 山田川の清流が荒廃しつつある 道路の改修を出しても解決されないことが多い 高齢化等により緊急避難所が適当でなくなった地区が発生している</p>
教育・文化	<p>通学路が暗いところがある 生徒数の減少に伴い部活動が十分に出来ない 運動公園が少ない 伝統芸能の継承者が少なくなっている 魅力あるイベントが少ない 神社の維持保全が難しくなってきた 青年壮年層を主体とした活動が停滞している</p>

(2) これから取り組むべき地域課題

山田校区は、中山間地域にあり人口減少・少子高齢化が如実にあらわれている。地域コミュニティをいかに維持していくかは喫緊の課題である。

項	取 り 組 む 課 題 は 何 か
人・地域	若年人口を確保し、交流人口と定住人口を増加 若年人口増につながる公営住宅の整備を推進 定住人口の増加につながる住宅地の造成 増加しつつある「空き家」の活用 若者を定住させる魅力ある生活環境の整備 働く場所の確保と共に近隣職場通勤への生活拠点の整備 定年後の生活を楽しむUターン推進 道の駅などの人の立ち寄る施設の設置
産業・経済	経済活動に必須条件となる情報関連環境の整備（光ネット、テレビ等） 基幹産業としての水田農業基盤再整備 米作以外の多様な商品作物の模索導入、山田ブランド創出研究 高齢による耕作者不在に伴う農地荒廃の防止 農業生産、日常生活に被害を及ぼす害獣駆除対策 農産物直売所の（かかし館・山田川）の維持 6次産業につなぐ加工施設の整備
生活	買い物の不自由な人に対する対策、商店の誘致 交通弱者への対応、交通手段、体系の見直し 地域医院を核とした総合病院との連携 消防・防災施設の見直し、救急時の対応 地域の福祉施設との連携による福祉活動 高齢者が健康で自立していく環境整備、検診率の向上 一人暮らし高齢者が安心して生活が出来る環境整備 青壮年層が活躍する環境の設定
環境	山田川の水質環境保全、あゆなどの自然遡上環境の整備 目木金産業廃棄物処分場等公害防止対策 生活道路等の整備保全 景観作物などの植栽による良好な生活環境の創出
地域	地域における連携、連帯を強める 各種団体、自治会役員選出が困難になる対策 合併を含む自治会の統合、連携の強化 防災、コミュニティ活動推進のための多目的施設、広場の確保 神社の維持・保全
教育文化	公民館学習活動の充実 中学校生徒数の対策 伝統芸能の維持継承 凱旋門等の観光資源の整備活用 自然を生かした観光資源の創出 かかし祭りなどのイベントの定着化

(3) 地域からの土木部への要望一覧 (自治会長から土木部に提出された)

地域	項目	課題	場所
古馬場	堤防の補強 (改修)	昨年の大雨で川の水が超える寸前だった	下名橋の下
	道路の補正	道路が川より低く大雨の時、河川の水が自治会に流れてくる	
新馬場	側溝整備・舗装	凱旋門の前は、観光資源でもあり、側溝の段差、カラー舗装等の配慮が必要	凱旋門前
鶴田	市道改良・拡幅	自治会内道路の拡張工事が途中でストップしている	市道約100㍍
	カーブミラーの設置	自治会内道路のカーブ ヒヤリ・ハット事故が多発している	自治会内道路
	農道舗装	生活排水配管場所の舗装のへこみ	自治会内道路
	排水路の拡張	鶴田公民館前の排水路 大雨時に道路が冠水する	鶴田公民館前
中川原	ガードレールの設置	市道 中津野～鶴田線の水路が危険	
新町	道路舗装	道路に凹凸が多く、降雨時に水ハネがでて交通に支障	山田小から郵便局
	横断歩道の位置変更	現在の位置は店舗の前で不便 (広さ不足) のため現在位置有村電気より、小学校正門出てすぐ左側へ移動	山田小前横断歩道
星ヶ山	排水路の拡張	大雨時に道路に水があふれ通行不能になる (改良申請済み)	鶴田～星ヶ山線
城	道路整備	路面が荒廃し、交通に支障をきたしている 側溝の整備と舗装が必要	城1号線60㍍ 城1号線70㍍
	道路整備	史跡陽春院跡地の墓地まで未舗装のため通行に支障	墓までの延長 100㍍
飛野	生活道路の保持	飛野地区は、高齢の一人暮らしが多く生活道路の維持が困難である	
	道路脇雑草の除去	自治会内の道路延長が長く、自治会で管理するには限界がある	バス路線沿い
池平	生活道路の保持	生活道路の維持が困難である	池平～琴ヶ谷

地域	項目	課題	場所
内山田	側溝の整備	過去の大雨により崩れが発生し応急的に蛇腹パイプが敷設されている。	内山田公民館上
	街灯の設置	内山田自治会と黒瀬自治会の境界点に街灯がなく通学路の安全が確保できない	内山田自治会と黒瀬自治会の境界点
	市道の改良	内山田・黒瀬線の改良を陳情し、採択されているが同線の入り口部分の補修が早急に必要	内山田・黒瀬線入り口
	市道の改良	この線は生活道路として利用されており重要な市道である。崖崩れの未修理箇所も多く自動車転落事故も発生している全線の補修が必要であり、早急に現状の把握と対策が必要である。	内山田～琴が谷線
	農道の改良	排水溝がないので農道に雨水が溜まる	県道40線から内山田 黒瀬線につなぐ農道
上名区内	市道舗装	上名堤防線は、H28年豪雨により半壊し復旧したがこの部分を除く舗装は痛みが激しく早急に全面舗装の必要がある。	上名堤防線
		この線は、上名水田の中央を貫いており交通量の多い市道で、舗装の痛みが激しく全面改良の必要がある	奈良袂～板ノ口線
	避難所への街灯設置	照明が一つもなく危険	城線
大山	市道の改良	大山口から20mは、広くなったがその先は狭いままである。生活幹線道路・通学路であるが歩道もなく危険性を感じる。	市道大山・湯之谷の加治木線
大山団地	市道舗装	大山口の道路の手前から大山団地入り口付近の舗装が剥離、凹凸、亀裂破損	大山団地入口 100㍍
	木の伐採	大山団地A棟駐車場上の山の木が台風や風雨等があると枝・枯葉が散乱し、倒れそうな木もある	大山団地A棟駐車場上
山田団地	道路の改修	山田団地前の道に停止線など、車が減速するようなものを設置してほしい	山田団地前
	時計の設置	公園に時計をつけてほしい (子供が帰る目安とする)	かかし公園

土木部からの調査がなされたが、現況を実査し掲載しました。

2 地域の課題のまとめ

山田校区の地域課題を「人口の維持」「産業の基盤」「生活」「環境」「地域」「教育・文化」の6つの項目に区分し、まとめました。

(1) 人口の維持

山田校区は、自治会数 20、人口 1,237 人であるが、年少人口 0 人の集落が 7 自治会、高齢化率 50%を超える自治会が 12 自治会あり、少子高齢化社会の典型となっている。このようなことからさまざまな分野で地域活動の減退が生じている。若年人口を確保し、交流人口と定住人口を増加させることが喫緊の課題である。

(2) 産業の基盤

今後、全ての経済活動に必須条件となる光ネット等情報関連環境未整備地域があり、経済活動を阻害する可能性がある。農業は、高齢化による耕作者不在の農地荒廃が懸念されると共に、用水の確保等の共同作業に影響が生じる。また、近年は、農林産物・日常生活に被害を及ぼす害獣被害が顕著であり、生産意欲の停滞、菜園の楽しみ等を阻害している。

(3) 生活

山田校区に唯一存在した A コープが平成 19 年に撤退し、商店は皆無となった。また、交通網は限定されており、「買い物弱者」「交通弱者」が出現している。安全・防災については、高齢化等による社会の変化に対応できる体制、施設整備が課題である。

(4) 環境

始良市が各自治会に道路等に関する調査についての回答は前掲のとおりである。山田校区は、面積が広く市道の延長も長い。壮年層の減少により、これまでの自助努力により行われている共同作業ができなくなることが危惧される。

(5) 地域

過疎、高齢、少子、職場の広域化等の要因から、お互いに顔を合わせる機会が少なくなり、地域における連帯感が薄れつつある。また、各種団体、自治会の役員等の世話役の選出が困難な場面が生じている。歴史性のある史跡、神社についても地域住民の自助努力に限界が生じている。

(6) 教育・文化

山田校区は、優れた観光資源、史跡、伝統芸能を保有しているが、伝統芸能の継承が危惧される。また、凱旋門等の観光資源の管理、保存も負担が大きくなりつつある。地区公民館も老朽化とともに機能的な陳腐化が生じている。

3 専門部の課題と今後の方針

青少年育成部

専門部名	青少年育成部
主な活動内容	青少年健全育成に関する事業
目指す姿	地域全体で見守る青少年育成活動
基本方針	○積極的な声かけ 「おはよう」「こんにちは」「危ないよ」「遅いから帰ろう」 ○子どもと高齢者が安心して過ごせる町づくり ○地域の行事に進んで参加する
現在の活動	児童・生徒の見守り 交通安全指導 あいさつ声かけ ふるさと発見 ふるさと美化 体験学習参加

専門部の課題

P T A ・ 子供会 ・ スポーツ少年団との連携 地域住民に活動内容をどう伝えるか

今後の取り組み

項 目			役割分担			期 間			備考
			校区	協同	行政	短期	中期	長期	
地域と学校との連携・安心に過ごせる町	声かけ	あいさつ運動推進	○			○	○	○	
		児童・生徒の見守り	○	○		○	○	○	
		あいさつ標語の創作	○		○	○	○	○	
	安心	登下校時の見守り	○			○	○	○	
		体験学習などの支援	○			○	○	○	
		学校行事の支援	○			○	○	○	
	地域行事に参加	地域の行事への参加	○			○	○	○	
		小・中との連携	○			○	○	○	
		清掃活動への参加	○	○		○	○	○	
		伝統芸能への参加				○	○	○	



親子でかかし作り



登山体験活動（栗野岳）

健康福祉部

専門部名	健康福祉部
主な活動内容	福祉に関する事業
目指す姿	高齢者の孤立化を防ぎ元気で安全な地域づくり
基本方針	○互助のこころを大切にしよう ○人と人のぬくもりを大切にしよう ○情報の共有
現在の活動	広報紙「いきいき山田」の発行 たすけあい活動 生きがいサロン活動 在宅高齢者訪問 認知症支援活動 福祉施設との連携

専門部の課題

サロンや支援活動に男性の参加を増やしたい
気軽に相談や息抜きのできる場所の提供

今後の取り組み

項 目		役割分担			期 間			備考
		校区	協同	行政	短期	中期	長期	
互助のこころを大切にしよう	赤い羽根運動協力	○	○		○			
	認知症支援活動	○	○	○	○	○	○	
人と人のぬくもりを大切にしよう	在宅高齢者の訪問	○	○		○	○	○	
	生きがいサロン支援	○	○	○	○	○	○	
	福祉施設との連携		○		○	○	○	
	地域行事への支援	○	○		○	○	○	
情報の共有	いきいき山田の発行	○			○	○	○	
	各種検診事業の情報周知	○		○	○			



笑顔が広がるサロン活動



高齢者疑似体験

スポーツ安全部

専門部名	スポーツ安全部
主な活動内容	スポーツや地域安全に関する事業
目指す姿	スポーツに親しむ習慣や意欲を養い、スポーツの楽しさや喜びを味わえるよう体力の向上を図る
基本方針	○地域の全ての世代の人々の交流を促進 ○スポーツに関する深い関心を理解する ○地域スポーツに関する情報の収集及び提供
現在の活動	校区ペタンク大会 校区グランドゴルフ大会 山田ふるさとウォーキング大会

専門部の課題

スポーツが気軽にできるグランドや施設がない スポーツの道具がない

今後の取り組み

項 目		役割分担			期 間			備考
		校区	協同	行政	短期	中期	長期	
地域交流	地域住民が主体的に参画する地域スポーツの環境整備	○	○		○	○		
参 加	若者のスポーツ参加機会の拡充	○			○	○		
体力作り	高齢者の体力づくりの支援	○			○	○	○	



自治会対抗グランドゴルフ大会



ふるさとウォーキング大会

地域づくり部

専門部名	地域づくり部
主な活動内容	地域づくりに関する事業
目指す姿	人情豊で明るい住みよい地域作り
基本方針	○他人の喜びを喜びとして、他人の悲しみを悲しみとして、共に出来る美しい人情を持ち合うこと ○人と触れあい人の役に立つことを喜びに出来る人々を目指す
現在の活動	かかし祭りの企画、実践

専門部の課題

人口減少にともない、地域の活力に衰えがある

今後の取り組み

項 目		役割分担			期 間			備考
		校区	協同	行政	短期	中期	長期	
楽しい 住みよい 地域作り	かかし祭りの定着	○			○	○	○	
	伝統芸能の保全・維持	○			○	○	○	
	観光資源の調査・活用	○			○	○		
	山田ブランドの開発	○	○		○	○	○	



賑わうかかし展示場



かかし祭り農産物などの販売

V 山田校区の目指す方向

1 校区振興計画を始良市実施計画へ反映

(1) 人口の維持

項目	地域でまとめられた考え	役割分担			実施期間		
		地域	協働	行政	短	中	長
山田校区の人口は顕著に減少し少子高齢社会となっています。様々な分野で地域活動の減退があり、若年人口を確保し、交流人口と定住人口を増加する必要があると考えられます。	○若者の住む公営住宅建築			○	○	○	
	○空き家の活用		○			○	
	○分譲宅地の造成		○			○	○
	○快適な住環境の醸成	○	○				○

(2) 産業・経済

項目	地域でまとめられた考え	役割分担			実施期間		
		地域	協働	行政	短	中	長
今後の経済活動には光ネット等の整備が必要と考えられます。また高齢化による耕作者不在農地の発生、害獣被害による、生産意欲の停滞、菜園の楽しみ等を阻害していることが懸念されます。	○光ネット等の導入を推進する		○			○	
	○効果的害獣駆除方法を導入	○	○		○	○	○
	○農地の保全組織の検討		○	○	○		○
	○営農集団が動きやすい環境	○	○			○	○
	○直売所の育成	○	○		○	○	

(3) 生活

項目	地域でまとめられた考え	役割分担			実施期間		
		地域	協働	行政	短	中	長
Aコープが平成19年に撤退し商店は皆無となり、「買い物弱者」が発生した。また、高齢化に伴う「交通弱者」の出現、安全・防火・防災について対応できる体制、施設整備を検討することが必要と考えます	○山田団地近辺コンビニ誘致		○		○	○	
	○デマンド交通体系の検討			○		○	
	○戸別防災無線の更新			○	○		
	○上名地域避難所の変更			○		○	
	○交通安全のための信号機設置			○	○		

(4) 環境

項目	地域でまとめられた考え	役割分担			実施期間		
		地域	協働	行政	短	中	長
山田校区は、面積が広く市道の延長線も長い。壮年層の減少により、これまでの自助努力により行われている共同作業が出来なくなることが危惧されています。	○飛野方面市道脇の雑草処理	○	○	○	○	○	
	○自治会要望に対する対処			○	○		
	○豊かな景観の保持		○		○	○	
	○きれいな山田川の保持	○		○	○		

(5) 地域

項目	地域でまとめられた考え	役割分担			実施期間		
		地域	協働	行政	短	中	長
お互いに顔を合わせる機会が少なくなり、連帯感が薄れつつある。歴史性のある史跡、神社についても地域住民の自助努力に限界が生じています。	○気軽に集えるコミュニティ拠点の設置		○		○		
	○可能であれば自治会の合併	○				○	
	○多目的施設、広場の確保			○		○	○

(6) 教育・文化

項目	地域でまとめられた考え	役割分担			実施期間		
		地域	協働	行政	短	中	長
観光資源、史跡、伝統芸能を保有していますが、伝統芸能等の継承が危惧されます。また、凱旋門等の観光資源の管理、保存も負担が大きくなりつつあります。地区公民館も老朽化とともに機能的な陳腐化が生じています。	○伝統芸能の電磁的記録保存		○		○		
	○凱旋門周辺を史跡公園化			○		○	
	○凱旋門観光商品の開発		○		○		
	○凱旋門周辺の観光案内地図	○			○		
	○山田地区公民館の移転新築			○			○

2 山田校区振興計画の推進

まちづくりスローガン

支えあい 安心して暮らせるまちを目指して

これまでに、山田校区の現況や課題を地域に住んでいる皆さんとともに話し合い活動が続けてきました。そこからは、きわめて顕著に進む人口減少と高齢社会の課題が浮き彫りになっています。

農業基盤の維持、居住環境の維持、人のつながり、文化の継承等さまざまな分野において地域活力の減退が見えることへの危惧がありました。一方、豊かな自然、凱旋門などの貴重な観光資源の存在、集落排水等導入の効果、空巷道路開通による立地の有利性などもあげられています。

人口の減少は、始良市総合戦略に「生産力の低下、消費規模の縮小はもとより、地域文化や地域活動の衰退、市の財源縮小など広範囲な影響が予想されます」とされ、課題として、「市内において中心市街地の一極集中がみられ、中山間地域の地域コミュニティ維持のための活性化対策等が求められる」と指摘しています。

一足早く人口減少と高齢社会の到来を迎えた山田校区においては、いかにして地域コミュニティを維持していくかに直面しています。今回の、まちづくりスローガンは、山田地域のよき伝統である相互扶助の心を基本にし、安心して暮らせることを目指し、「支えあい 安心して暮らせるまち」としました。

過疎化の進むコミュニティ維持のため、地域住民の自助、共助はもとより、将来を展望した効果的な公助の適用が強く望まれるものであります。

今回、初めての試みとして各校区でまちづくりプランが策定されたのは、それぞれの地域が抱えている課題を共有するとともに、その解決の方向を考え、努力していくこと。また、提言は可能なかぎり始良市実施計画の参考にしていきたいとの主旨でありました。

山田校区では、これに基づき、まちづくりプラン策定において、「地域でまとめられた考え」として反映いたしました。

この計画は、住民共通のものであり、計画の推進にあたっては、役割分担を図りながら、少しでも前進するように努めることが求められています。

今後、計画の進捗状況を確認し、必要に応じて変化する社会情勢に対応しながら、随時、地域住民の手により見直しをわかり、まちづくりプランを推進してまいります。

1 山田校区内の史跡

山田地区の歴史

山田地区は、別府川水系の山田川中流域にあり、奈良時代の和銅年間(708～715)に鈴木四郎政長により開拓されたといわれ、戦国時代には大隅国帖佐郷に属していました。この頃に上名に山田城が築かれ、天文24年(1555)には梅北国兼が地頭となっております。

江戸時代になると、鹿兒島藩独特の行政制度である外城(のちに郷)が成立します。山田郷の成立ははつきりとしませんが、慶長5年(1600)の高津義弘の手紙に「吉田・蒲生・帖佐・山田・加治木、此の五ヶ所を外城にかまへ」とあり、この頃までには帖佐郷から独立したと考えられます。

当初の村名は山田村、甌村・寺師村・大山村・辺川村で、その後甌村は北山村、山田村は上名村・下名村になります。時期は不明です。地頭飯屋と麓は下名、野町(商店街)は西田にあります。寛永13年(1636)の「珠目人数 武員注文 旧記雑録」によると、山田衆は人数1557(うち男941)で、鉄砲30挺、弓5張を所持していました。

元文4年(1739)の重富郷創設に伴い、寺師村は再び帖佐郷に移され、代わりに蒲生郷木津志村が加えられた結果、山田郷は木津志村・上名村・下名村・大山村・北山村・辺川村の6か村となりました。

明治22年(1889)の市町村制施行により、山田郷は山田村となり、6か村は大字になりました。昭和27年(1952)には大字辺川が加治木町に編入、昭和30年(1955)の始良町成立の際には大字木津志のうち終野が蒲生町に編入されました。平成22年(2010)には、始良市が誕生し、現在に至っています。

1 山田の凱旋門 [国登録有形文化財]

日露戦争に山田村から従軍した人たちの無事な帰国を記念し、明治39年(1906)3月に山田村長事会が建設しました。右造の凱旋門としては、国内唯一の貴重な文化財です。

2 西南の役記念碑

凱旋門の裏山に2基建てられています。明治12年(1879)建立の戦亡招魂表の裏面には、山田郷から薩軍に従軍した戦死者61名の名前が刻まれています。

3 日高壯之丞翁記念碑

日高壯之丞は、明治時代の日本海軍の常備艦隊(のちの連合艦隊)司令長官になった人です。しかし日露戦争直前に海軍大臣山本権兵衛により、東郷平八郎と交代させられました。壮之丞の母は下名の出身です。

4 地頭飯屋跡

江戸時代の山田郷には地頭が置かれ、軍事・行政をつかさどる役所である飯屋が現在地にありました。麓と呼ばれました。明治以降もここには役所が置かれました。

5 山田麓

山田郷の中心であった麓は下名にありました。麓には半土半農の郷土が住み、郷を支配していました。

6 水口ゆきき嬢頭彰碑

ゆききは山田郷から水利のない中津野への用水を完築し、宝暦2年(1752)延長約4kmの中津野用水を完成させました。用水路の工事で、大変苦勞しながら、途中「ネル」も設けました。



7 諏訪山板碑 [市指定史跡]

鎌倉時代末期の嘉暦3年(1328)、通称「御諏訪様山」(諏訪神社跡)に建立された板碑です。大日如来を表す梵字と年号などが彫られています。

8 黒島神社

山田郷の旧郷社で上名黒瀬にあり、和銅年間(708)に鈴木三郎政長が勧請したといわれています。毎年2月の例祭には、お田植え祭りと膳師が奉納されます。

9 黒島神社石橋 [市指定有形文化財]

天明4年(1784)6月25日に架けられた石橋で、三角形状のアーチが特徴的です。

10 黒瀬の田の神

享保17年(1732)に造られた古い田の神様を表す石の祠です。

11 山田城跡

上名を一望する高台にあり、戦国時代には、高津氏と祁答院・蒲生氏との間で、激しい攻防が繰り返され、ここも重要な戦場となりました。今でも空堀や土塁(土の壁)が堅く城を守っています。

12 陽春院跡

上名の城にあった江戸時代の寺院で、正式名称は玉城山淨福寺陽春院です。明治初年の焼失後跡が壊され、現在は仁王像2体と不動明王像などが残っています。

13 西田の田の神 [市指定有形文化財]

文化2年(1805)に造られた神職が式子のユニークな顔立ちをした田の神で、田の神舞の姿を表しています。右側の右側には、次の刻銘があります。

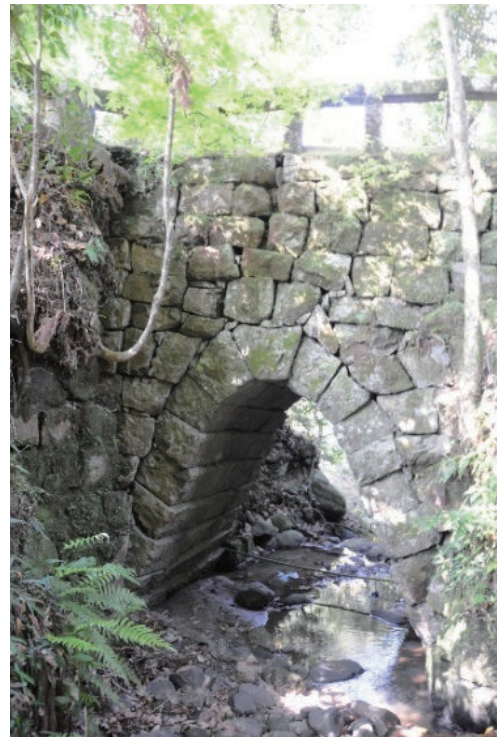
「奉寄進 文化二年乙丑 四月吉祥日 始良郡 山田西田上下郷中」

平成25年1月 始良市教育委員会製作

山田校区内の史跡（指定文化財）



国登録文化財
山田の凱旋門（正月）



有形文化財
黒島神社石橋



史跡
諏訪山板碑



有形民族文化財
西田の田の神

無形民俗文化財



【上名棒踊り】

由来は朝鮮の役の凱旋祝いに踊られたものと伝えられていますが、一説では大洪水で水路が決壊した際、復旧工事にきていた串木野の住人三左衛門という人が伝授したとも言い伝えられている。
この踊りは、早いテンポで櫛の六尺棒で激しく打ち合う勇壮な踊りです。



【下名棒踊り】

下名地区の棒踊りは6人一組が3列縦隊となり、三尺棒のみと、棒と鎌を使う2種類の踊りが伝えられている。上名棒踊りに比べると所作がやや優しいとされているが勇壮な踊りです。



【下名疱瘡踊り】

疱瘡踊りは疱瘡（天然痘）が流行した時に疱瘡の退散を祈ったと言われていています。しかし疱瘡の退散のために踊ったのは明治19年3月の大流行までであり、それ以降は落成式など祝賀行事の際に踊るようになったといわれています。



【上名お田植え祭り】

黒島神社で行なわれるお田植え祭りは、その起源はわからないが、地元では神社創建以来の行事として続けられています。昔の農法であった木の葉を肥料とする「カシキ」にニワトコの芽を使うことや早苗ではなく種籾をまくこと、牛や人などによる野外劇は行わないなど古いかたちの行事です。

その他史跡



黒島神社



貴船神社



上名稻荷神社



秋葉神社



日枝神社



招魂社記念碑



陽春院仁王像



大山の田の神



黒瀬の田の神の祠



上名内山田の田の神



中川原の田の神



水口ゆきえ嬢の碑

2 山田校区まちづくりプラン策定の経過

年月日	項目	内容
平成 29 年 5 月 14 日	第 1 回策定委員会（全体会）	概要説明・スケジュールの検討
8 月 20 日	策定委員役員会	プラン内容、構成の検討
10 月 6 日	策定委員役員会	各区・専門部の課題等、方針等の計画
10 月 29 日	策定委員役員会	アンケート調査、意見の収集方法について検討
11 月 1 日～	アンケート調査の実施	校区民約 50 名対象
11 月 24 日	策定委員役員会	アンケート結果の取りまとめ・現地調査の計画
12 月 9 日	現地調査	アンケート結果・要望書を元に現地視察
平成 30 年 1 月 20 日	第 2 回策定委員会（全体会）	プラン内容の編集・内容の精査
2 月 10 日	第 3 回策定委員会（全体会）	内容の詳細な確認・紙面編集
2 月 20 日	編集会議	役員にて最終校正
3 月末	校区内配布	全世帯に配布

【策定委員による校区内現地調査活動の様子】



【まちづくりプラン策定委員会】

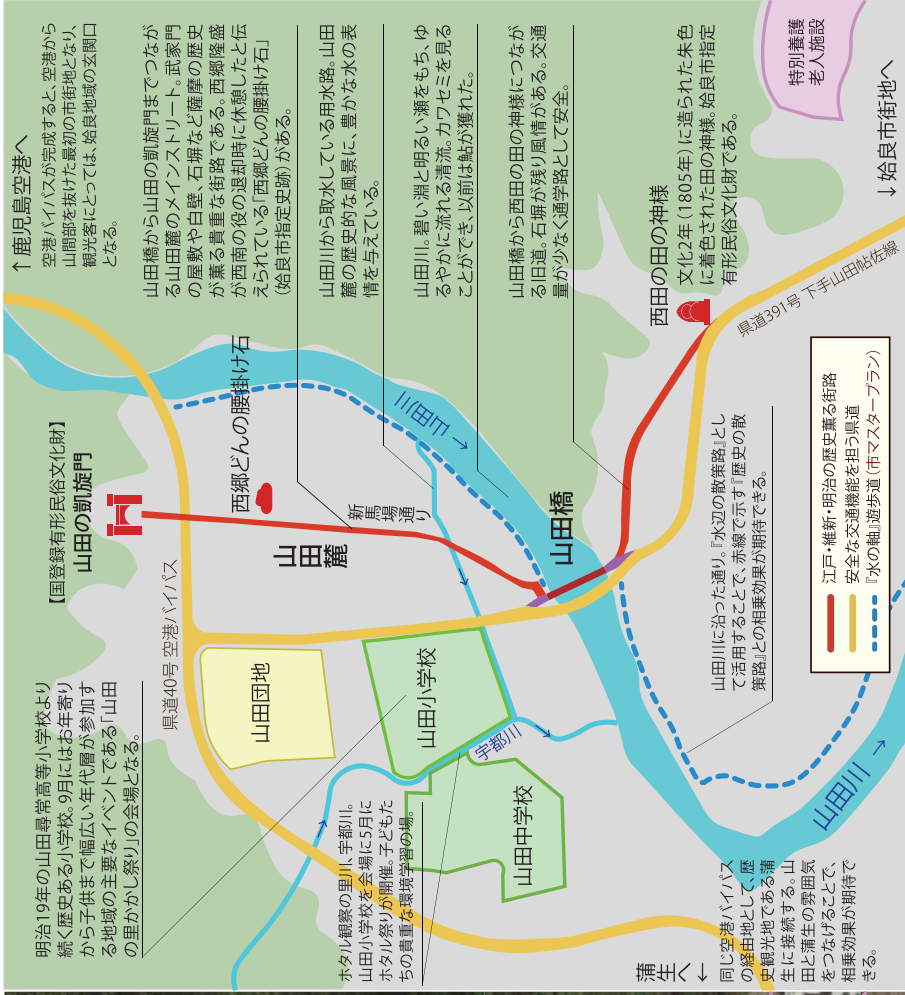
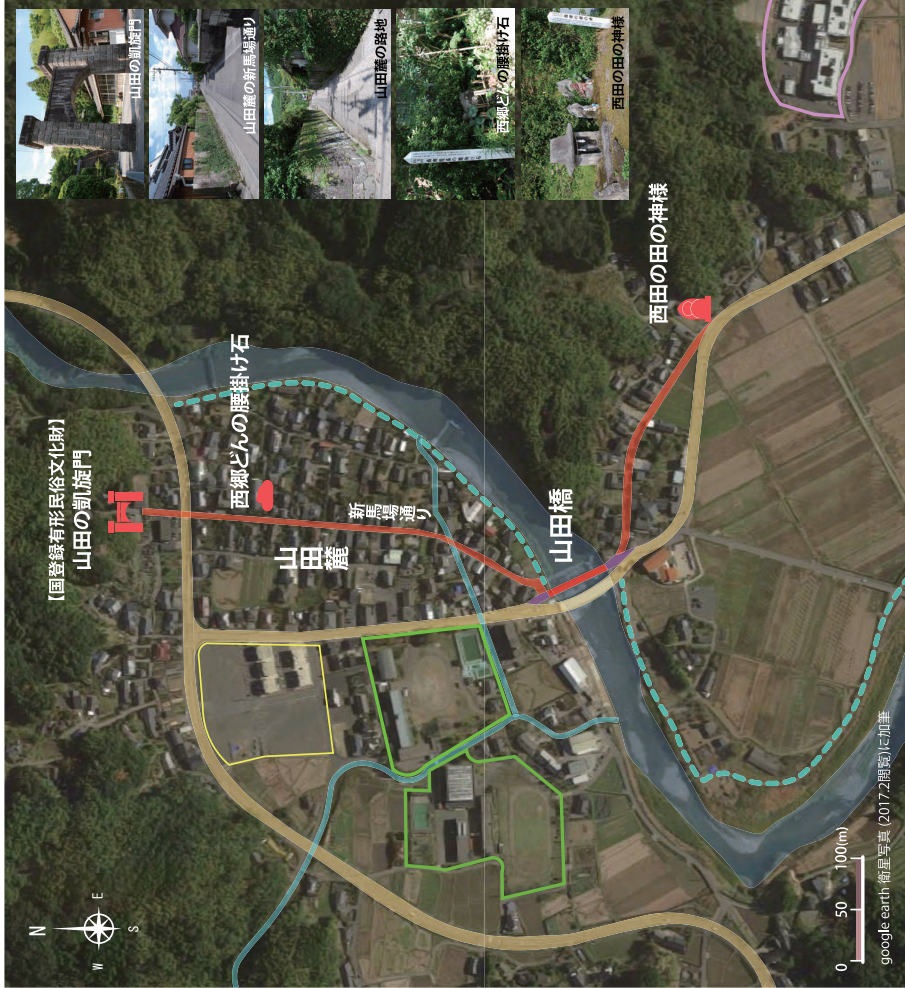


3 山田校区まちづくりプラン策定委員

下 村 愿	山田校区コミュニティ協議会会長
玉 利 道 満	副会長・上名区長
瀬 戸 口 勉	副会長・下名区長
下 覇 満 伸	副会長・大山区長
西 寛 文	副会長・地域づくり部部长
眞 正 英 志	青少年育成部部长
狩 集 勉	スポーツ安全部部长
瀬 戸 サ 工 子	健康福祉部部长・民生児童委員
榎 田 義 文	古馬場自治会長
今 村 茂 樹	奈良袂自治会長
瀬 戸 山 千 代 美	女性代表・民生児童委員
池 田 満 穂	壮年代表・新馬場自治会
佃 昇 治	壮年代表・大山自治会
山 下 理 恵	女性青年代表・山田団地自治会
新 蘭 柁 哉	青年代表・中川原自治会
小 倉 秀 光	(事務局) 山田校区コミュニティ協議会事務局長
藤 高 洋	(事務局) 副会長 会計
山 下 裕 子	(事務局) 副会長 支援員



招魂社記念碑より展望する山田の風景

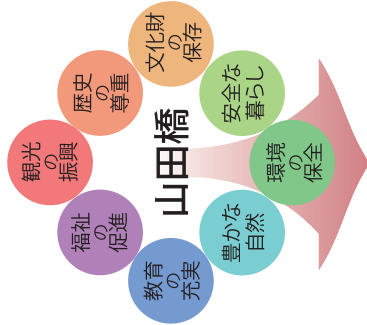


山田橋の周辺環境

山田橋が架かる始良市の山田地域は、山田麓のおもかげが残る歴史文化が薫る地域である。山田麓のメインストリートである新馬場通りは、山田橋と山田の凱旋門を結んでいる。山田の凱旋門は国登録有形民俗文化財であり、日露戦争従軍者の帰還を祝い明治39年に建造された歴史的価値の高い文化財である。山田橋は、この凱旋門と霧田をあわせて橋脚や高欄にアーチ形状を取り入れており、文化的価値が高い。

山田橋の利活用 / 歴史・観光資源として

山田の凱旋門から山田橋を渡り西田の田の神様までつながるルートは、武家門や白壁、石塀が残る歴史情緒あふれる通りである。西南戦争の際に西郷隆盛が腰掛け休憩したと伝えられている西郷どんの腰掛け石（始良市指定史跡）や、歴史ある用水路など、観光資源が多い。昨今、地域の歴史や自然を巡るフットパス観光が注目されているが、この通りはフットパスにも適している。この通りの中心に位置し、自然豊かな山田川との結節点に位置するのが山田橋である。江戸期の農村文化である田の神様、同じく江戸期の薩摩文化である麓、明治維新の西郷どんゆかりの石、明治後期の日露戦争凱旋門、昭和初期の近代化橋梁と、まさに山田地域の歴史を映す通りである。



山田橋の利活用 / 地域の教育・福祉資源として

淵と瀬をもつ豊かな山田川に架かる山田橋からは、山田の自然が一望できる。力ワセミヤマセミが飛来するなど野鳥観察も期待でき、子供たちの貴重な環境学習の場となる。また、山田橋は地域の近代化を担った歴史遺産であり、生きた歴史教材となる。秋の山田の里かかし祭りでは、会場のひとつとして利活用が期待できる。

山田橋のベンチは、下校の子供と地域のお年寄りの日常的な交流を促し、高齢化が進む地域での貴重な世代間交流の場となる。また、子供たちとお年寄りが相互に見守る機会となる。地域の記憶に根差した山田橋の高欄をベンチとして各所にて利用することで、地域内散策の活性化による健康促進など、福祉資源としての機能が期待できる。

山田橋の利活用 / 地域の文化財として

山田橋は、昭和4年に竣工した鉄筋コンクリート橋である。前頁の通り、大正～昭和初期は鉄筋コンクリート構造物が全国に広まった最初の隆盛期であり、この時期の鉄筋コンクリート橋は文化的価値が高い。山田の凱旋門と霧田を合わせた山田橋は、地域文化財として非常に価値が高い。

山田橋高欄のベンチ再利用によるまちづくりプラン

豊かな水と緑あふれる山田の里づくり

～旧山田橋の高欄ベンチ再利用による5つのまちづくり整備方針～

1. 地域の誇り『山田の凱旋門』を活かした“背骨”づくり

凱旋門から旧山田橋を經由して西田の田の神様を結び山田麓のメインストリートを、『山田の凱旋門通り』として、歴史・文化・自然を感じる山田の“背骨”のようなかんじの街路として整備する。

2. 観光活性化に資する“水と緑の景”づくり

“背骨”の要所となる凱旋門および山田橋跡地を緑地公園とし、“緑の景”を整備する。凱旋門および招魂社一帯は、緑あふれる歴史公園として整備し、地域内外からの来訪者増加を期待する。山田橋跡地は、小さな緑のポケットパークを整備する。凱旋門公園と旧山田橋の橋詰公園が創り出す緑の空間が、周辺の自然環境とつながり、居心地の良い緑の雰囲気を作り出す。

また、豊かな水文化を伝える山田川、各用水路、宇都川と出会う“水の景”を整備する。特に旧山田橋の橋詰公園は、山田川を望む緑地公園として、水と緑の雰囲気あふれる空間を創出し、観光活性化を期待する。

3. 福祉および観光を促進する“歴史風情ある散策路”づくり

地域に点在する史跡等を巡り、山田麓の歴史を感じる石垣や小径、古くから営農を支えた水系基盤や河川と出会う“歴史風情ある散策路”を整備する。市観光協会等と連携しアットパスコースとして観光振興を期待するのみならず、日常的な散策コースとして福祉環境を促進する。

4. 次世代の郷土愛を育む“学びの場・気づきの場”づくり

子供たちが、山田の歴史・文化・自然を学び、地域らしさに気づき、愛着を醸成する機会となる“場”を創る。

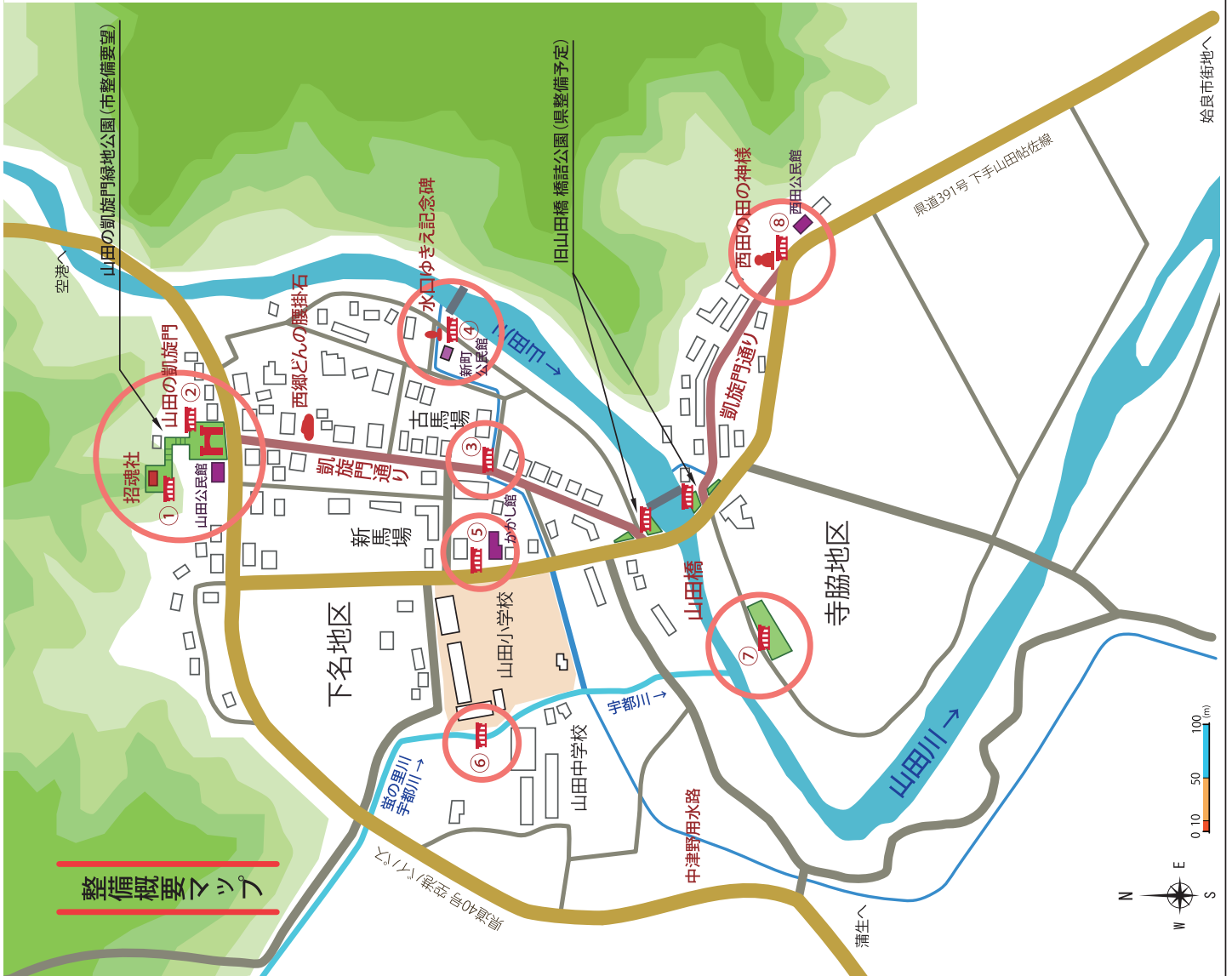
5. 世代間交流を促進する“ふれあいの場”づくり

散策、休憩、遊び、井戸端会議等を通して、日常的にお互いが見守り、見守られる機会となる“場”を創る。

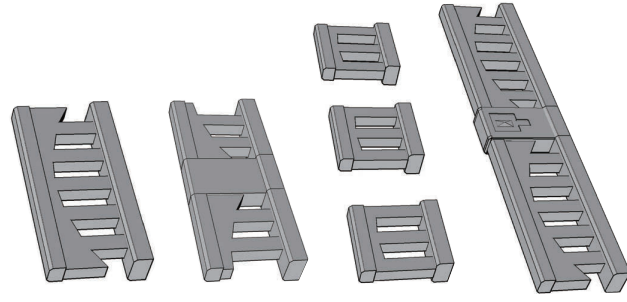
旧山田橋の高欄をベンチや転落防止柵等として、左図の①～⑧において再利用する

- ① 凱旋門歴史公園 (招魂社)
- ② 凱旋門歴史公園 (凱旋門)
- ③ 凱旋門通り・中津野用水路
- ④ 水口ゆきえ記念碑よこ
- ⑤ かかし館よこ
- ⑥ 山田小・宇都川沿い
- ⑦ 山田川沿い公園
- ⑧ 西田の田の神様よこ

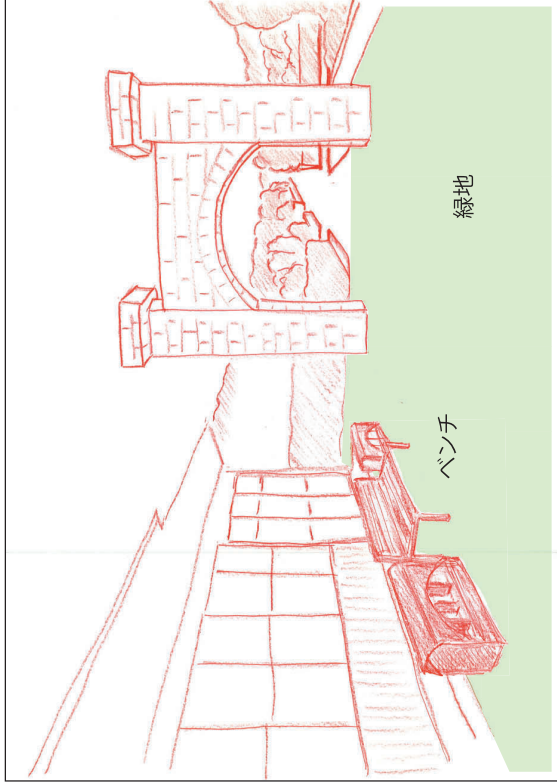
- 凡例
- 高欄再利用位置
 - 緑地公園
 - 公民館等
 - 凱旋門通り
 - 史跡等



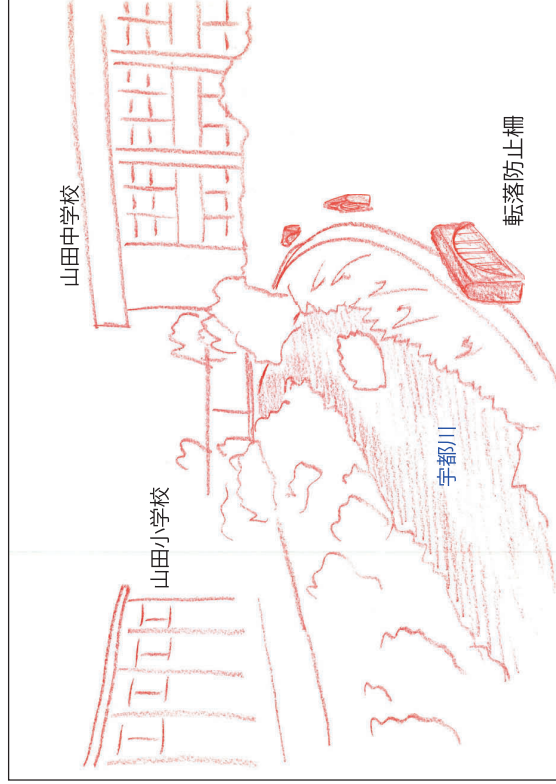
旧山田橋高欄の 再利用イメージ



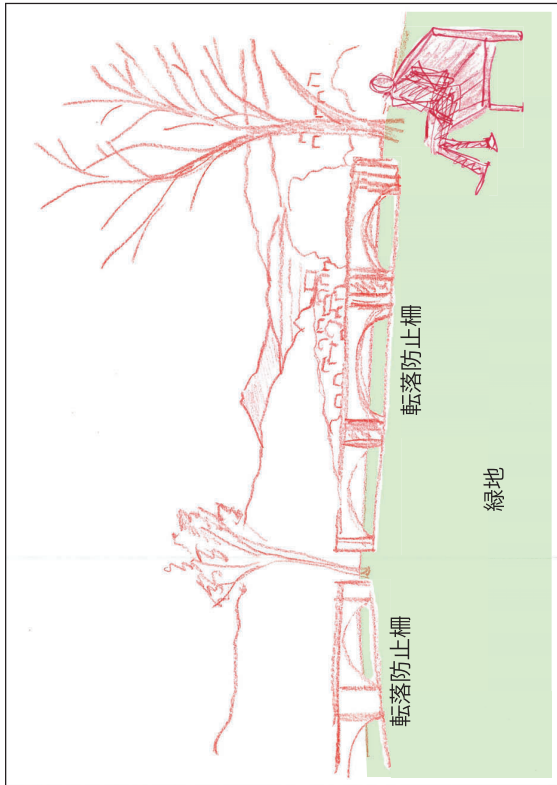
カット位置により
多様なタイプが制作可能



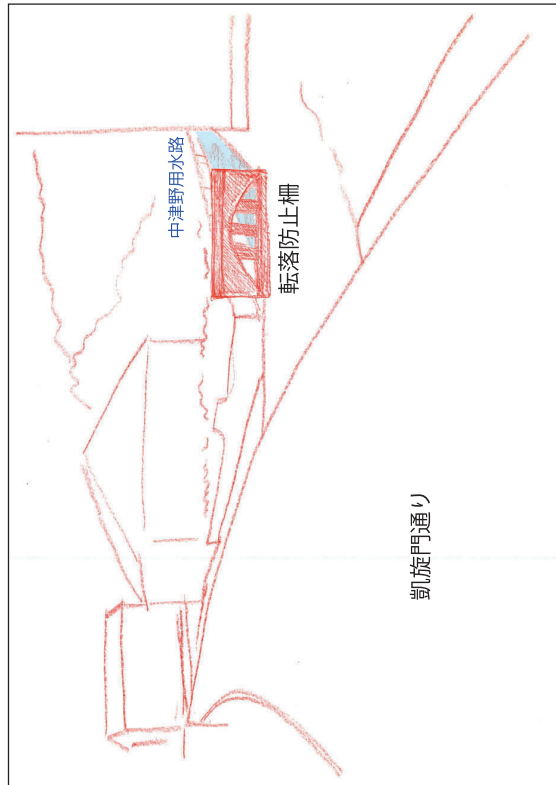
② 凱旋門歴史公園（凱旋門）



⑥ 山田小学校・宇都川沿い



① 凱旋門歴史公園（招魂社）



③ 凱旋門通り・中津野用水路

作 成 山田校区コミュニティ協議会
まちづくりプラン策定委員会

発 行 平成 30 年 3 月

連絡先 山田校区コミュニティ協議会事務局
〒899-5543

始良市下名 1188 (山田地区公民館内)

TEL 0995-73-7434 FAX 0995-73-7436

E-mail yamada-aikomi@po5.synapse.ne.jp